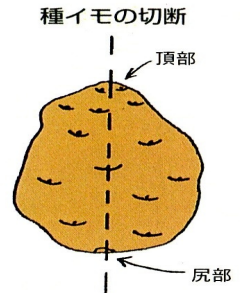


野菜の作業

凍霜害の時期です。遅霜には気象情報を参考に万全を期しましょう！

旬	種まき	定植（植付け）	栽培のポイント												
上旬	<b>播種</b> ・ホウレンソウ ・コマツナ ・ブロッコリー ・シュンギク ・ニラ ・チンゲンサイ ・エンドウ ・ダイコン(ト礼)	・レタス ・ジャガイモ ・ミョウガ	<b>【バレイショの定植】</b> ・植付けが遅れるほど減収します。適期に植えられるように準備を進めましょう。標高500mでの植付け適期は4月上旬です。（100m上がる毎に5日遅らせます） ・施肥量：10㎡あたり堆肥20Kg・化成肥料1Kgを全面施用 ・栽植密度：うね幅60cm 株間30cm ・種芋は頂芽を中心とし50g程度に切って植えます。 ・黒マルチの使用は初期生育を速めるとともに除草にも効果的ですが、萌芽時に芽を焼かないよう注意が必要です。												
中旬	<b>育苗</b> ・トマト ・ナス ・ピーマン ・キュウリ  温床線により13～15以上の夜温確保を行う！	・ブロッコリー ・チンゲンサイ (3月播種の苗)  ・ウド(根株)	<b>【アスパラガス収穫期の管理】</b> ・萌芽前の除草剤散布												
下旬	<b>鉢育苗</b> ・オクラ ・モロヘイヤ  <b>播種</b> ・スイートコーン ・カブ ・葉ネギ		<table border="1"> <thead> <tr> <th>除草剤の種類</th> <th>対象雑草</th> <th>処理時期・方法</th> <th>散布量 (10a当り)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ロロックス(水)</td> <td>広葉雑草</td> <td>・雑草発生前</td> <td>150～200g</td> </tr> <tr> <td>トリアリド<sup>®</sup>(乳)</td> <td>イネ科雑草</td> <td>・土壌全面処理</td> <td>200～300ml</td> </tr> </tbody> </table> <p>注意事項                      ・10a当たり水100リットルに溶かし動噴で均一に散布する。                      ・広葉、イネ科双方の雑草が多い場合は上記薬剤を混用する                      (平成27年3月30日 JPPNETで確認)</p> ・遅霜対策 スソ上げなしで換気と作業が効率よくできる保温資材「らくらくシート」をJAで扱っています。	除草剤の種類	対象雑草	処理時期・方法	散布量 (10a当り)	ロロックス(水)	広葉雑草	・雑草発生前	150～200g	トリアリド <sup>®</sup> (乳)	イネ科雑草	・土壌全面処理	200～300ml
除草剤の種類	対象雑草	処理時期・方法	散布量 (10a当り)												
ロロックス(水)	広葉雑草	・雑草発生前	150～200g												
トリアリド <sup>®</sup> (乳)	イネ科雑草	・土壌全面処理	200～300ml												
			<b>【スイートコーンの播種】</b> ・トンネル早熟栽培は4月上旬にポット播きをし、本葉3枚の頃、定植を行うと7月上旬に収穫が可能 ・露地マルチ栽培では「直まき」によりは4月下旬～7月上旬が播種期 4～5回に分けて順次播種を行うと長期間収穫が可能。 ・施肥量(10a当り)：堆肥30Kg、苦土石灰1Kg、化成肥料1Kg(10㎡) ・栽植密度：うね幅90cm、株間30cmの千鳥播きで1穴3粒 ・間引き：本葉4枚の頃に1本に間引く(はさみで切る)												



## 花の作業 【小菊の管理】

夏秋ギクの早生品種は定植時期（4/下～5/上）となります。

### 1) 定植の準備

- ・ 植え痛みを防ぐため、仮植苗は定植の10日前程度に良く切れる刃物を用いて根回しを行い、育苗施設内へ外気を入れ十分に順化（外気温への慣らし）を行っておきます。

### 2) 定植：栽植密度

床幅	通路幅	株間	条間	植え方
50～60cm	50～60cm	10～15cm	30cm	2条植え



## 【畑の準備のポイント】



NO	準備作業	作業のポイント																											
1	作付け計画の作成	輪作を主体に考え、何をどの位作るか計画を立てましょう！																											
2	堆肥の散布	完熟堆肥を用意し100kg/aを目安に施用しましょう（定植1ヶ月前）																											
3	土壌酸度の矯正	土壌診断により石灰を散布し、土壌酸度を適正に矯正しましょう（同上）																											
4	基肥の施用	化成肥料やBB肥料等の基肥は、は種（定植）作業の2週間前には施用し肥料と土を馴染ませておきます																											
5	ポリマルチの活用	春先は地温が低いので初期生育確保のためポリマルチの活用が効果的です。は種（定植）当日に張るのではなく、基肥を施用したら土壌水分が適正な時を見計らい早めに張って地温を上げておきます。 <b>【有孔ポリマルチ】</b> ・ポリマルチには、は種（定植）作業がし易いように予め穴を空けてある有孔ポリマルチがあります。																											
		<div data-bbox="1082 1070 1445 1357" data-label="Image"> </div> <p>ポリマルチで地温確保を！</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">有孔ポリマルチの規格</th> <th rowspan="2">主な対象作物</th> </tr> <tr> <th>幅 (cm)</th> <th>条数</th> <th>条間 (cm)</th> <th>株間 (cm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95</td> <td>2</td> <td>45</td> <td>30</td> <td>ダイコン・レタス・スイートコーン</td> </tr> <tr> <td>95</td> <td>2</td> <td>45</td> <td>45</td> <td>ハクサイ</td> </tr> <tr> <td>130</td> <td>6</td> <td>16</td> <td>15</td> <td>ホウレンソウ</td> </tr> <tr> <td>130</td> <td>7</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>ニンジン、サラダナ、ホレンソウ</td> </tr> </tbody> </table> <p>穴の大きさは、小（45mm）、中（60mm）、大（80mm）がある。</p>	有孔ポリマルチの規格				主な対象作物	幅 (cm)	条数	条間 (cm)	株間 (cm)	95	2	45	30	ダイコン・レタス・スイートコーン	95	2	45	45	ハクサイ	130	6	16	15	ホウレンソウ	130	7	15
有孔ポリマルチの規格				主な対象作物																									
幅 (cm)	条数	条間 (cm)	株間 (cm)																										
95	2	45	30	ダイコン・レタス・スイートコーン																									
95	2	45	45	ハクサイ																									
130	6	16	15	ホウレンソウ																									
130	7	15	15	ニンジン、サラダナ、ホレンソウ																									



(前ページからのつづき)

## 水稻の育苗管理

### 3つのポイント 育苗期管理のポイントは苗の生長に合わせた温度管理

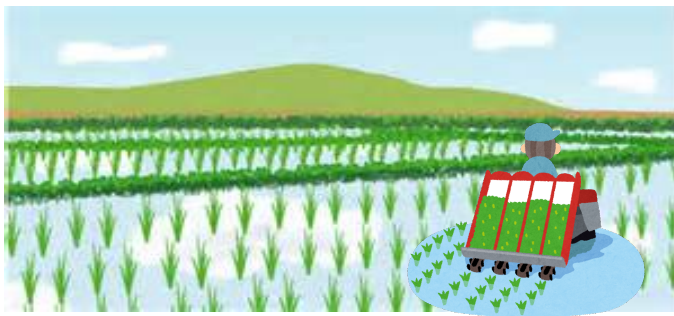
第1のポイントは箱を伏せて芽が出てくるまでの管理。

この期間は苗代の温度を12 から28 に保つ。この時期に30 を超えると、もみ枯れ細菌病を誘発する恐れがある。箱土の表面が乾いた場合や発芽時に覆土のもち上がりがあった場合は、午前中に一旦箱上まで湛水にして、ただちに排水する。長時間の湛水は生育が悪くなるので注意する。順調に行けば5～6日で発芽ぞろいとなる。

第2のポイントは、発芽がそろったら、12 から25 を目標にして管理する。この時期になると朝晩は寒くても日中の日差しが強くなり、トンネルの中が高温になってしまうことがある。本葉が出た時期に、49 に1分間置くとイネは枯れてしまうので、朝寒くても、日中晴れて高温になると予想されるときはトンネルを開いて、温度が上がり過ぎないようにする。

2枚目の葉が半分くらい顔を出してくると、モミに蓄えられていた養分がなくなる「離乳期」にあたるため、温度の変化に敏感になり、ムレ苗や立枯病が発生しやすくなる。苗立枯病には多くの種類の病原菌が関係し、イネがストレスを受けて弱ると病気になりやすいので、温度管理には特に気を使うこと。温度は12 から22 を目標にして、昼間は温度を25 以上にしないように注意する。また、この時期は遅霜の時期と重なるので、夜間は保温マットで覆い、低温にあわせないようにする。

第3のポイントは、稲の葉が3枚になったら、田植えにむけて外の環境に慣らすため、はじめは、寒冷紗だけで管理し、暖かく晴れた日には直射日光を当てて、外の空気に慣らすようにする。田植えの4～5日前には寒冷紗もすべて取り払い、田植えまで管理する。



## 害虫の予察と防除講習会の計画

よりよい農業の実践の栽培管理の一環である、害虫防除について、発生予察等について学ぶ。

- 1 日時 平成27年4月20日(月) 午後の予定  
(参加人数により午前中から実施)
- 2 場所 参加者の状況により決定
- 3 内容 (1) 害虫の予察について  
(2) 予察の実際
- 4 参加希望者 平成27年4月14日(火)までにあさつゆに申し込む

### あさつゆ連絡

電話番号：0268-41-1062  
FAX：0268-41-1063

### 技術事項作成協

上小農業改良普及センター  
電話番号：0268-25-7156(直通) FAX：0268-23-2161